

令和 5 年度 施策評価表

施策	1304 畜産業の振興	施策担当部	産業振興部	部長	浦山 優
		施策担当課	農林水産振興課	課長	山田 充哉
施策の方針	魅力ある大村産畜産物づくりを進め、畜産農家の経営安定を図る。また、公共牧場の更なる有効利用を推進する。				
関連するSDGsのゴール	     				

【DO（実施）】

後期基本計画（令和3年度～令和7年度）における数値目標

指標名	単位	基準値 (R1)	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R4年度	
			R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	達成率	進捗率
① 畜産物の産出額	億円/年	10.8	10.9 11.4	11.0 11.2	11.2	11.3	11.4	101.8%	98.2%
② 飼養頭数（肉用牛）	頭	820	830 743	840 779	850	860	870	92.7%	89.5%
③									
④									
⑤									

施策達成状況の説明

①畜産物の産出額は11.2億円（前年比98.2%）。海外情勢の変化による飼料価格の高騰による、離農及び経営規模の縮小が原因となっている。
 ②肉用牛の飼養頭数は、基準値である令和元年度以降に繁殖牛農家が2戸廃業したことが主な要因となり、依然として目標値を下回って推移しているが、令和4年度の飼養頭数の実績は、前年度比104.8%となっている。

施策経費

(単位:千円)		R4年度 決算	R5年度 予算	R6年度 見込	特記事項
内訳	事業費	27,010	29,900	349,702	
	国庫支出金	1,100	1,050	300,056	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	0	0	0	
	その他	7,612	3,897	3,989	
	一般財源	18,298	24,953	45,657	
	人件費	8,332	9,297	—	
フルコスト	35,342	39,197	—		

施策の概要（細施策）

130401	魅力ある大村産畜産物づくり	魅力ある大村産畜産物づくりのため、優良な子牛の自家保留のほか、高品質な素畜や精液等の導入を促進します。 また、農家の経営安定につなげるため、飼養技術の向上を図ります。
130402	防疫体制の強化	鳥インフルエンザなど家畜伝染病の発生防止や早期発見のため、自衛防疫の啓発に努めます。 また、獣医師による農家への定期的な巡回などにより、家畜伝染病に関する迅速かつ適切な情報伝達を行うことで、防疫体制の強化を図ります。
130403	公共牧場の有効利用	肉用牛繁殖農家及び酪農家の飼育経費と労働力の低減のため、公共牧場の有効利用を促し、優良な肉用牛・乳用牛の育成などに取り組みます。 また、酪農家から肉用牛繁殖農家へ経営転換する農家が増えているため、肉用牛の受入態勢の強化を図ります。

【CHECK（評価）施策担当部長】

施策を達成する上での問題点・課題

魅力ある大村産畜産物づくりについては、生産者の高齢化等に伴う生産者の減少に加え、依然として海外情勢の影響による飼料価格の高騰が高止まりが継続しており、飼養頭数及び出荷頭数は以前と比べ減少してきており、畜産農家の安定的な経営に向けた取組みが必要である。

防疫体制の強化については、近隣諸国や国内において口蹄疫や鳥インフルエンザ、CSF（豚熱）等が依然として発生している。令和4年度には、県内でも鳥インフルエンザが発生しており、本市では発生していないものの、引き続き国、県及び関係団体と連携し、防疫対策に取り組む必要がある。

公共牧場の有効利用に向けた取組みについては、指定管理者である長崎県農業協同組合及び牧場利用者協議会との協議を進め、老朽化及び破損した牧場施設の補改修を計画的に進めていく必要がある。

【ACTION（改善・改革）】

上記の問題点・課題を踏まえた事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方

優良畜産物の安定生産について、にこにこ畜産経営事業で実施している生産者側からの意見を踏まえ、良質な畜産物づくりや出荷頭数の確保に向け継続して取り組む。さらに、スマート農業の推進に必要な支援について生産者の意向をふまえ検討していく。

肉用牛については、大村生まれ長崎和牛づくり事業の実施により、5年に1回開催される全国和牛能力共進会（令和9年度北海道大会）の出品に向けた取組を畜産農家で構成する団体及びJAなどと連携し進めていく。また、「長崎和牛」の高付加価値化を目指し県央地区で設立されたブランド牛「長崎和牛プレミアム県央」について、「牧場まつり」などのイベントを通じて普及啓発を図っていく。

防疫体制の強化については、今後も継続して県や関係団体と連携し防疫対策に取り組む。

公共牧場の有効利用については、酪農家の経営転換により肉用牛の預託頭数が増加傾向にある中、預託牛（主に肉用牛）の体格が、これまでの肉用牛改良の成果や各農家の飼育管理技術の向上により、以前と比べ大きくなっている状況であるため、牛舎の補改修等の検討のほか、経年劣化により補修等が必要な施設等について、利用者協議会及び指定管理者等と協議しながら、計画的に改善していく。また、安心して預けてもらえるように、指定管理者と協議しながら、飼育管理の向上を図っていく。

令和6年度新規事業

	事業名	担当課	令和6年度見込	対象・事業概要など
			事業費（千円）	
1				
2				
3				
4				
5				
			0	